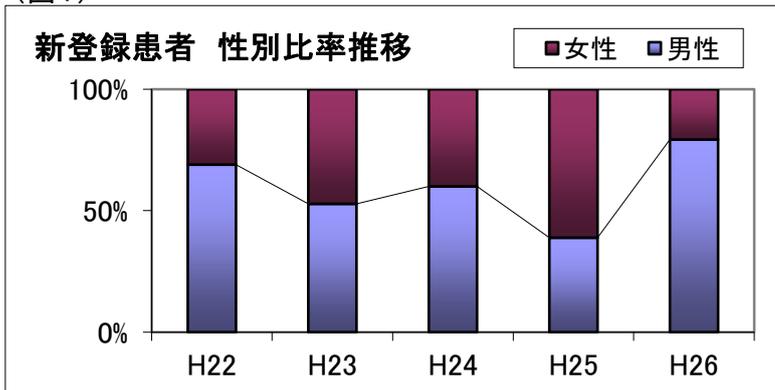


平成26年 結核登録者の状況

1 新登録患者数, 罹患率(表1)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
新登録結核患者数	58	53	50	36	29
罹患率(人口10万対)	16.4	15.1	14.2	10.3	8.3
菌喀痰塗沫陽性肺結核患者数	30	23	19	15	10
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	8.5	6.5	5.7	4.3	2.9
65歳以上の新登録患者数	46	45	40	28	25
新登録結核患者数に占める割合	79.3%	84.9%	80.0%	77.8%	86.2%
(別掲)潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	2	14	9	19	14

(図1)



(表1より)

平成26年新登録患者数は29名, 潜在性結核感染症患者数は14名であった。新登録患者の86.2%は65歳以上であった。

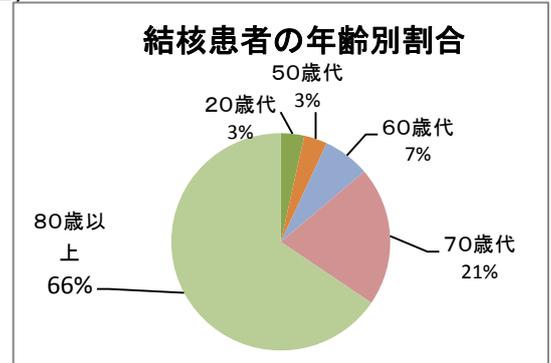
(図1より)

平成26年新登録患者性別比率は男性23名(79.3%), 女性6名(20.7%)と, 男性が多かった。

(表2) 年齢別 結核罹患率

年齢区分	患者数	罹患率
9歳以下	0	-
10歳代	0	-
20歳代	1	3.3
30歳代	0	-
40歳代	0	-
50歳代	1	2.3
60歳代	2	3.5
70歳代	6	13.9
80歳以上	19	63.6
計	29	8.3

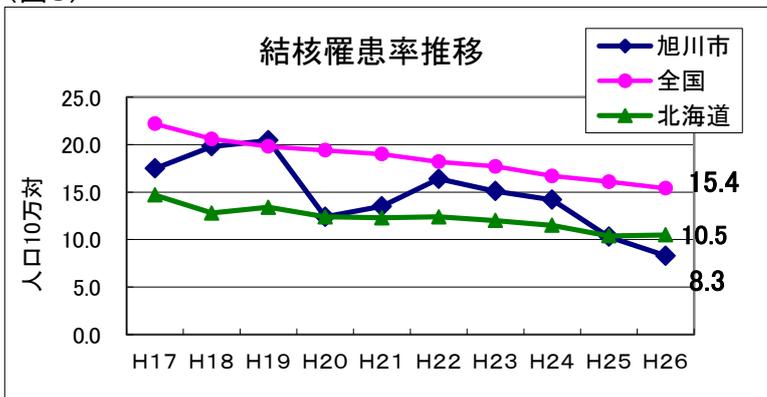
(図2)



(表2) (図2)より

新登録結核患者は年々高齢化しており, 80歳以上の結核患者は65.5%となっている。80歳以上については罹患率も高くなっており, 70歳代と比較して約4.6倍となっている。

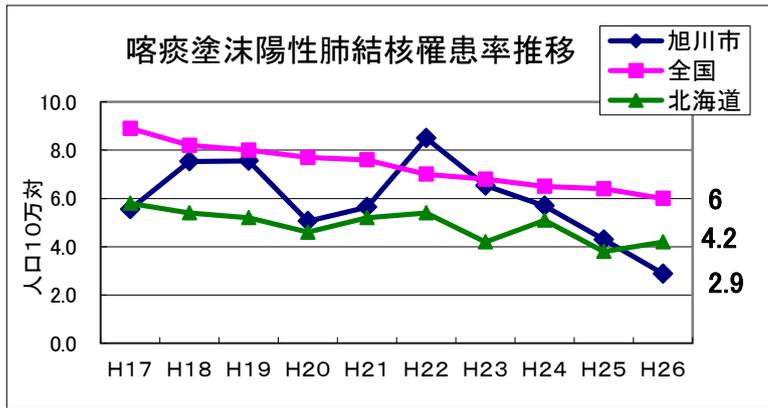
(図3)



(図3より)

結核罹患率は平成22年以降年々減少し, 平成26年は8.3(人口10万対)と, 低まん延とされる結核罹患率10を初めて下回った。全国, 北海道と比較しても低い結核罹患率となっている。

(図4)



(図4より)

平成26年喀痰塗沫陽性肺結核罹患率は2.9（人口10万対）で、前年4.3と比べ減少している。全国、北海道と比較しても低い状況である。

※喀痰塗沫陽性肺結核：患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人達への感染源となりやすい

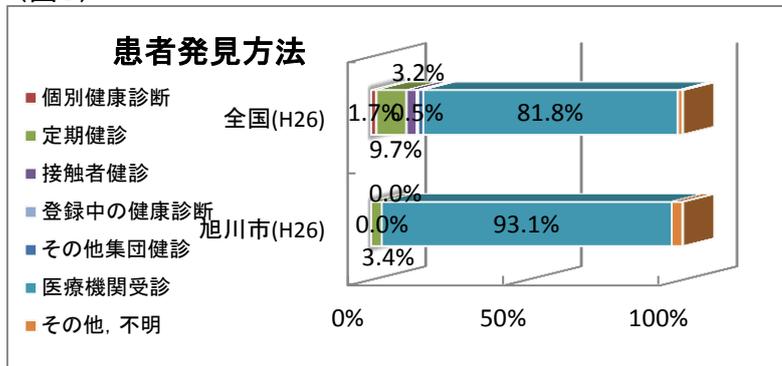
2 結核登録者数, 有病率 (表3)

区分	H22	H23	H24	H25	H26
結核登録者数	124	128	133	106	85
活動性全結核患者数	45	37	28	27	17
有病率(人口10万対)	12.7	10.6	8	7.7	4.9
全国有病率(人口10万対)	14	13.5	11.7	11	10.6

(表3より)

平成26年末現在の結核登録数は85人であり、前年より21人減少した。うち、活動性全結核の患者数は17人であり、前年より10人減少した。

3 新登録患者結核病類 (図5)



(図5より)

新登録患者29名の発見方法は医療機関受診が27名（93.1%）と多く、定期健診1名（3.4%）、その他不明が1名（3.4%）であった。

全国より、医療機関受診による発見が多い傾向であった。

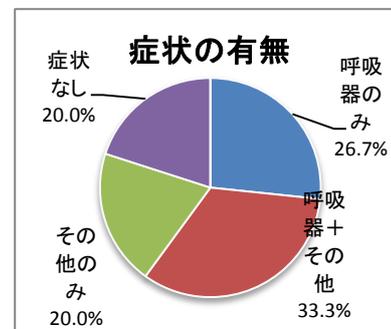
表4 結核患者分類 ※複数診断あり

病名	人数	割合
肺結核	17	51.5%
結核性胸膜炎	6	18.2%
結核性腹膜炎	3	9.1%
粟粒結核	2	6.1%
皮膚結核	2	6.1%
他のリンパ節結核	1	3.0%
結核性髄膜炎	1	3.0%
結核性心膜炎	1	3.0%
合計(延)	33	

(表4より)

新登録患者29名の内訳は、肺結核17名（51.5%）であった。肺外結核では、結核性胸膜炎6名（18.2%）、結核性腹膜炎3名（9.1%）の順に多かった。

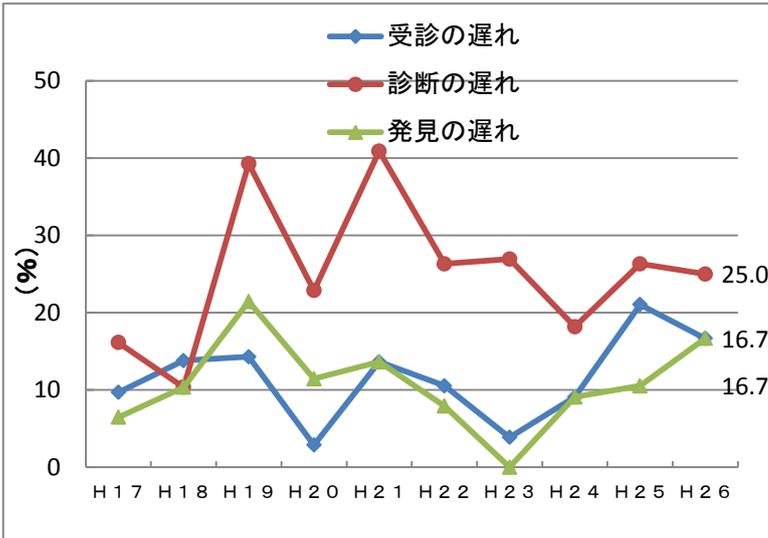
図6



(図6より)

肺結核患者15名（粟粒結核を併発している者は肺外結核患者に分類する）のうち12名は有症状であり、呼吸器症状があったのは9名（60.0%）であった。

4 新登録有症状肺結核患者の発見の遅れ
(図7)

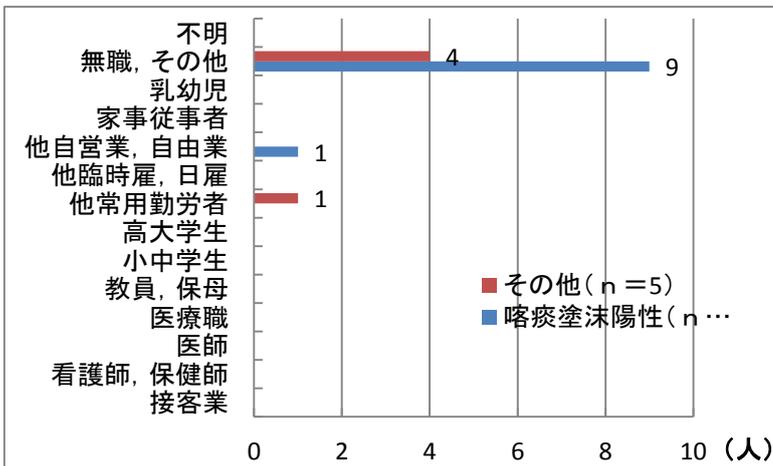


(図7より)

平成26年有症状肺結核患者12名のうち、発病から初診までの期間が2か月以上（受診の遅れ）の者は2名（16.7%）、初診から診断までの期間が1か月以上（診断の遅れ）の者は4名（25%）、発病から診断までの期間が3か月以上（発見の遅れ）の者は2名（16.7%）であった。

全国と比較すると、受診の遅れと発見の遅れの割合は低かったが、診断の遅れについては、全国よりも高い割合であった。

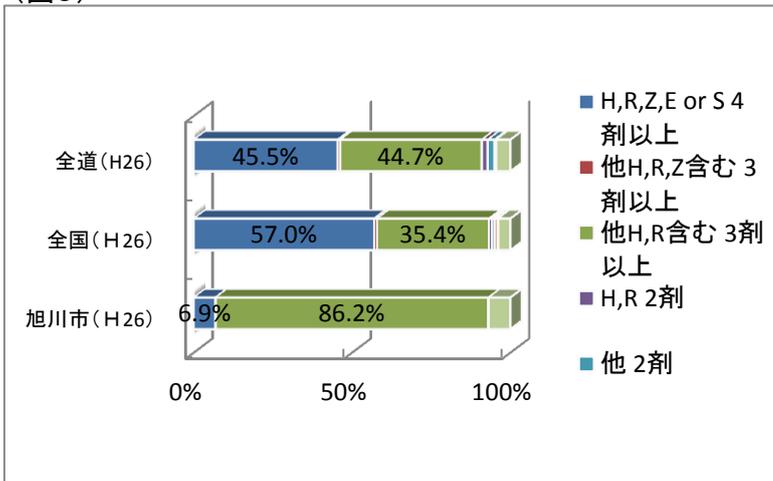
5 新登録肺結核患者 登録時職業
(図8)



(図8より)

新登録肺結核患者23名の登録時職業は高齢者が多いため無職が13名（56.5%）と多かった。

6 新登録患者化療内容
(図9)



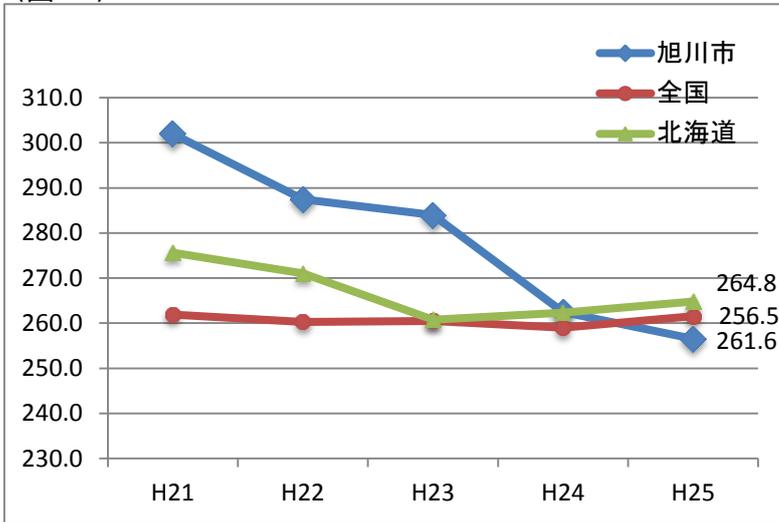
(図9より)

新登録患者29名の化療内容はH,R,Z,E or S以上使用していた者が2名（7%）と昨年50.0%から大幅に減少し、他H,R含む3剂以上使用していた者が25名（86.2%）を最も多かった。患者が80以上の割合が高く、PZAを使用できなかったことによると考えられる。尚、9割以上が標準治療となっている。

7 薬剤感受性試験結果

新登録菌培養陽性肺結核患者は4名のうち3名が薬剤感受性検査を実施しており、3名ともH,R,S,Eすべてに感受性があった。

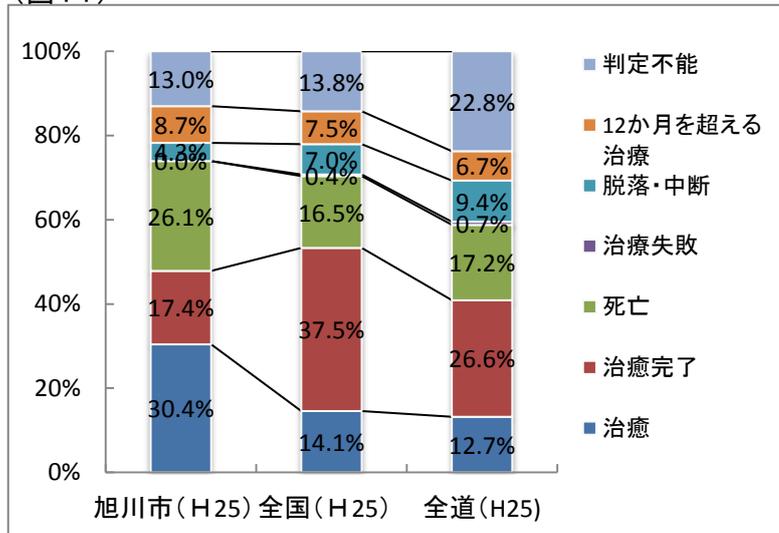
8 平成25年全結核治療完遂継続者治療期間中央値 (図10)



(図10より)

平成25年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は256.6日であり、平成21年から現象傾向である。H25年については、全国、全道と比較しても大きな差は見られなかった。

9 平成25年新登録肺結核患者 コホート観察 (図11)



(図11より)

平成25年新登録肺結核患者23名のコホート観察は治癒は7名(30.4%)、治癒完了が4名(17.4%)で、治療成功は5割弱に留まった。死亡が6名(26.1%)のほか、12か月を超える治療が2名(8.7%)、標準治療以外の治療による判定不能が3名(13.0%)であった。また、治療失敗は0名であったが、脱落中断者が1名(4.3%)で、特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。